

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.30

【性差を知り、差別はせず区別を ～女は女である!～】

かなり前から花粉症となり、そのせいでずっと3月は過ごしにくく、花粉症じゃない人が羨ましいです。結構楽しんでた夜の連続ドラマもほとんどが最終回となり、ラジオからは連日桜ソングがながれ、「あっ、そうか、春なんだ……」と実感する毎日。

コロナ、ガマン・・・
地震、注意・・・
花粉症、憂鬱・・・
コロナ、早くワクチンを！・・・
欲しがりません、終わるまでは・・・。

という辛抱の日々。コロナ以前よりも忙しくないにもかかわらず、時間の流れが速く感じられるのは私だけでしょうか？ コロナは収束しませんが桜の開花は例年より早く、台東区の花見スポットはほとんど満開らしいので見に行きたいのですが……。

みやちゃんが理事長を務めているHAP主催の「浅草ロコモ（浅草渡會 美しく立つロコモ道場）」は毎月一回開催で、3月度は3月3日のひなまつりの日に開催されました。浅草ロコモはリアル開催とWEB開催があり、私はスタッフでもありますので毎回、会場に赴きリアル参加です。

毎回テーマがありますが、この日のテーマは、3/1～3/8「女性の健康習慣」ということもあり「女性問題」。「わきまえない人たち」が女性を話題にし大問題に発展したこともありレアな選択ですね。

浅草ロコモは1時間、そのうち10分ほどテキストを使い理論的に学びます。この日、配布されたテキストによると女性のスポーツ障害として、骨粗鬆症、摂食障害、月経異常、疲労骨折があるということです。そのためには、小学生のうちに、受け身、立ち方、あたり方、よけかた、身体作法などを「身体教育」として学校教育の中で学ぶことが大事と説きます。

……うーん、私も昔こおった坂道ですってんころりと転倒し臀部を強打して苦しんだ経験があります（幸いにも骨折はなし）。雪国で育った方によると、転び方を学んでいるので雪が降っても怖くなく上手な転び方をしているとのこと。高齢になると転倒→骨折はほぼセットになりますから、身を守るためにも身体教育の必要性がありますよね。

男性と違い女性は、ステージ毎に三変化します。女性差別はあってはいけないことですが、明らかな生物学的違いは存在し、そのために「性差医療」という分野が必要とされています。

最近の報道で、「政府は、コロナ禍で『コロナ切り』などによる生活困窮で生理用品を買えない女性たちの支援に乗り出す方針を固めた」とありました。仕事場で差別にあい、貧困で切り詰める生活を強いられるという不条理。悲しくてやりきれません。

言うまでもなく、男性に生理はありませんので生理用品は不要です。女性は閉経まで約40年間、生理のためにお金がかかり、個人差はありますが心身の不調を抱えます。

よって、性差を知り、差別はせず、しかし区別をすることが必要なのは言うまでもありません。みやちゃんは次のように意見を発信しています。

***** 宮原富士子 2/6付けFB *****
2021年2月6日

【性差医学・性差医療学会】

WEBで聴講できる幸せ感。じっくり聴講できました。

思い出すのは2001年頃の千葉県での出来事。女性外来を立ち上げるその時の知事堂本さんに議会で屁理屈質問・・・「男女共同参画」といいながら「女性外来」は矛盾していると・・・今のオリンピックのM会長と同じ路線だあ。つまり、変わっていないということか20年間・・・政治家？政治や？男尊女卑てきもの見方？なんだろうね～。いい加減ぎりぎり現役の私たちの世代から物を発していかないとね。私たちの世代とてこのコロナ禍でのいきなりWEB現実化でのぎりぎり追走だから。時代はかわる。その人その人がその人の役割を演じつつ、尊厳を大事にしあいながら生きていく。その知恵のひとつが医学。生物学的な男と女の違い、それによる病気の成り立ちやその後の経過、死亡率違いをじっくり見極める学問。その先に国民のそれぞれの立場が尊重された医療があるんだよねえってことを、また、いろんな場面で伝えていきたいなあと思いました。今日は有意義な1日でした。

多様性を認め受け入れる。一人ひとりが意識を持てば、コロナ問題をしのぐような女性蔑視報道はなくなるのではないのでしょうか？